

ア ニ ュ ア ル レ ポ ー ト

ANNUAL REPORT
2021

神奈川県立産業技術短期大学校
産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会

も く じ

1. あいさつ	1
2. 学校概要	
2-1 本校の成り立ちと教育訓練目標	3
2-2 本校の特色	3
2-3 沿革	4
2-4 組織	4
2-5 定員・授業料等	5
2-6 入学試験実施状況（令和3年度・第27期生）	6
2-7 学年別応募・入学状況	6
2-8 就職の状況（令和2年度）	7
2-9 年度別就職状況	10
2-10 年度別就職先企業一覧	11
2-11 令和2年度トピックス	12
2-12 第58回技能五輪全国大会	14
2-13 公開講座（グッドヒューマンネットワーク講座）	15
2-14 令和2年度年間行事	16
2-15 企業在職者のための能力開発施設としての機能	17
2-16 人材育成支援センターとしての機能	18
3. 学科紹介	21
4. 学生卒業制作・研究報告	32
5. 講師研究報告	41
6. 産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会	
6-1 目的	72
6-2 沿革	72
6-3 概要	72
6-4 推進協議会の事業	73
6-5 令和2年度実施事業報告	74
6-6 令和2年度実施事業一覧	76
6-7 講演会	77
6-8 役員、会員一覧	79
令和3年度役員名簿	80
会員名簿	81
案内図	90

1. あいさつ

神奈川県立産業技術短期大学校 校長 松永 和彦



本校並びに職業能力開発推進協議会の年間の研究成果と事業報告をまとめた「アニュアルレポート2021」の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

現在も新型コロナウイルス感染症が収束しない中、ようやく高齢者に対してのワクチン接種が始まり今後の効果に期待したいところです。継続して新型コロナウイルス感染症に対応されている医療機関の皆様、様々な関連業務を担っている皆様に改めて感謝申し上げます。

本校では、十分なコロナ対策を施し、3月18日の卒業式、4月5日の入学式を学校の行事として無事開催できたことは大変有意義な事であったと考えております。コロナ対策の新しい手法として、オンラインでの面接、会議などを実施しております。ご存じのとおり職業能力開発推進協議会の令和2年度 第三回理事会、令和3年度 第一回理事会をZoomによるオンライン形式で開催しました。対面とは異なる新しい開催方法の有効性を感じたところです。通信環境の問題等改善すべき課題も改めて把握できました。これからしばらくコロナと共存していく事を考えますと、新しい手法を導入して様々な行事を安全に開催して参りたいと思います。

さて、今年度は、第一期留学生在が就職の時期となります。会員企業の皆様にはインターンシップの受け入れや情報交流会、合同企業説明会など、多大なご協力をいただいております。しかしながら、就職に関しては厳しい状況と感じており、会員企業の皆様の更なるご支援を賜りたく、ご協力をお願い申し上げます。

また、各種競技会への参加、求職者・在職者の方を対象とした訓練の実施、講師研究による業界のニーズにマッチした職業訓練カリキュラムの開発、中小企業の人材育成・職業訓練への支援にも取り組んでおります。そして「西キャンパス再整備事業」、「かながわIT人材教育モデルP-TECH」も動き出しました。このような中、本校の最も大きな課題に入学生の定員割れの問題がございます。特に厳しい状況の製造3科(生産技術科、制御技術科、電子技術科)への対応として、今年度も継続して「KCIT*あり方」と題し、以下3つの取組を加速して実施して参ります。

- 1) 「ホスピタリティー向上」：学生・来校者の方々が快適に過ごせる校の環境作り
- 2) 「魅力づくり(校のウリ)」：講師研究等で企業・地域の皆様から求められる技術と学習内容の導入
- 3) 「時代ニーズに合ったコースの設定」：学習内容・学科名称を時代ニーズに合った内容とする

これからも皆様のご意見を伺い、本校の事業内容のさらなる充実を図って参りたく、引き続きご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

(*：KCITは、本校の英語名称「Kanagawa Prefectural Junior College for Industrial Technology」の略称)

産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会 会長 安藤 孝男



昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、小売業や飲食、宿泊、サービス産業を中心とする多くの企業が打撃を受ける中、今後のコロナ禍における回復は二極化し「K字型」となる見通しも示されております。また、独立行政法人労働政策研究・研修機構が2021年4月に発表したりポートによると、日本では雇用維持制度などにより失業者の急激な増加は何とか抑えられているという傾向が見て取れますが、先行きは不透明といわざるを得ません。

このような状況の中、私達を取り巻く社会や経済、個人の生活は大きく変化しつつあり、会員企業の皆様におかれましては、そうした変化に対応するため様々な工夫に取り組んでおられることと存じます。

一方、国の職業能力開発施策に目を向けてみますと、去る3月29日に厚生労働省により、令和3年から令和7年までの5年間の方向性を示す「第11次職業能力開発基本計画」が策定されています。この計画における4本の柱のひとつには、「産業構造・社会環境の変化を踏まえた職業能力開発の推進」が掲げられています。

具体的には、コロナ禍により需要が急速に高まったオンライン環境を職業訓練に取り入れていくことや、ものづくり分野にAR・VR等の新たな技術を導入して教育訓練を推進することにより、国が目指す“Society5.0”(サイバー空間と現実空間を融合させ経済発展を実現する社会)に必要な人材育成を図ることが示されています。

現在、高等教育機関等で学んでいる若者達は「Z世代」と呼ばれており、スマートフォンやSNSを日常的に使いこなすなど、情報リテラシーに関する基礎力を早くから身に付けている世代であります。こうした素養に加えて、産業技術短期大学校での教育訓練を通じて「ものづくり」の本質を学んだ学生達は、“Society5.0”に対応した人材として、これからの企業の継続的成長に不可欠な存在となりうるといえます。

本協議会は発足以来、会員が事業所で行う人材育成に関する支援、会員相互の情報共有と短大校が推進する教育訓練への支援を目的に活動してきました。令和3年7月時点で373会員となり、多くの会員に活動を支えていただいております。感染症の不安からの解放を願いつつ、令和3年度以降の協議会運営に当たっては「新しい生活様式」に沿った工夫を検討しながら進めて参りたいと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。また事業へもぜひご参加ください。

このレポートを通して、会員の皆様が多岐にわたる活動にご理解を深めていただけることを願っております。

2. 学校概要

産業技術短期大学校

管理課

学生課

産業技術課

生産制御課

電子情報課

人材育成支援課

(人材育成支援センター)

2-1 本校の成り立ちと教育訓練目標

本校は、企業ニーズに対応した高度で専門的な知識・技術を有するエンジニア養成を目的として神奈川県が設置運営する職業能力開発短期大学校です。

学校教育法を設置根拠とする大学・短期大学とは異なり、「職業能力開発促進法」に基づき設置されている「職業能力開発施設」という位置付けになります。

同法を設置根拠とする施設のうち、職業能力開発校（本県では総合職業技術校）が学卒者、離転職者及び在職者を対象として期間、内容ともに幅広い訓練（普通課程等）を行うのに対し、本校は新規学卒者を主対象にした2年間の訓練（専門課程）を行い、「実践技術者」を育成します。

この実践技術者とは、専門的な技術・知識とものづくりに関する幅広い高度な技能を併せ持ち、豊かな創造力と優れた行動力を兼ね備えた課題解決型人材と定義付けています。

平成7年4月1日の開校以後、企業の皆様方に本校の実践技術者育成方針を評価していただき、高い就職率のもと、製造業を中心とする多くの企業様に卒業生を送り出しています。

2-2 本校の特色

本校は前述のとおり「教育・研究施設」ではなく、あくまで職に就くための知識や技術を身に付ける「職業能力開発施設」ですので、授業カリキュラムは企業において求められる実践的な知識・技術の修得をめざした構成になっています。

授業カリキュラムは2年制の短期大学校でありながら、必須履修単位数156単位、総授業時間数2800時間となっており、4年制大学（文科系）の授業量に匹敵するボリュームの教育訓練を行っています。

総授業時間に占める実習・実技の割合は6割以上にのぼり、一人1台の機器での実習や少人数教育制とあいまって、確かな技術の修得を可能としています。さらに、専門科目の学科・実験・演習・実習のほか、英語、社会経済概論、マーケティング概論、ビジネスマナーなどの教養科目も充実しています。

学生にとっても、就職後に必要とされる内容について、本校で学んだ知識・技術が活かしてミスマッチが少ないことから、就職後も意欲とやりがいを持って仕事に取り組むことができます。そしてこの卒業生の頑張りがまた、企業様から高い評価をいただいているという好循環を生んでいます。

学科構成は5学科で、生産技術科、制御技術科、電子技術科、産業デザイン科、情報技術科となっています。各学科の定員は40名で、1学年200名、全学年400名の定員です。

令和2年度は、留学生10名の受け入れを開始しました。また、神奈川県、県教育委員会、日本アイ・ビー・エム株式会社と連携して取り組むIT人材教育モデル「かながわIT人材教育モデルP-TECH」の実施校として本校が位置付けられました。



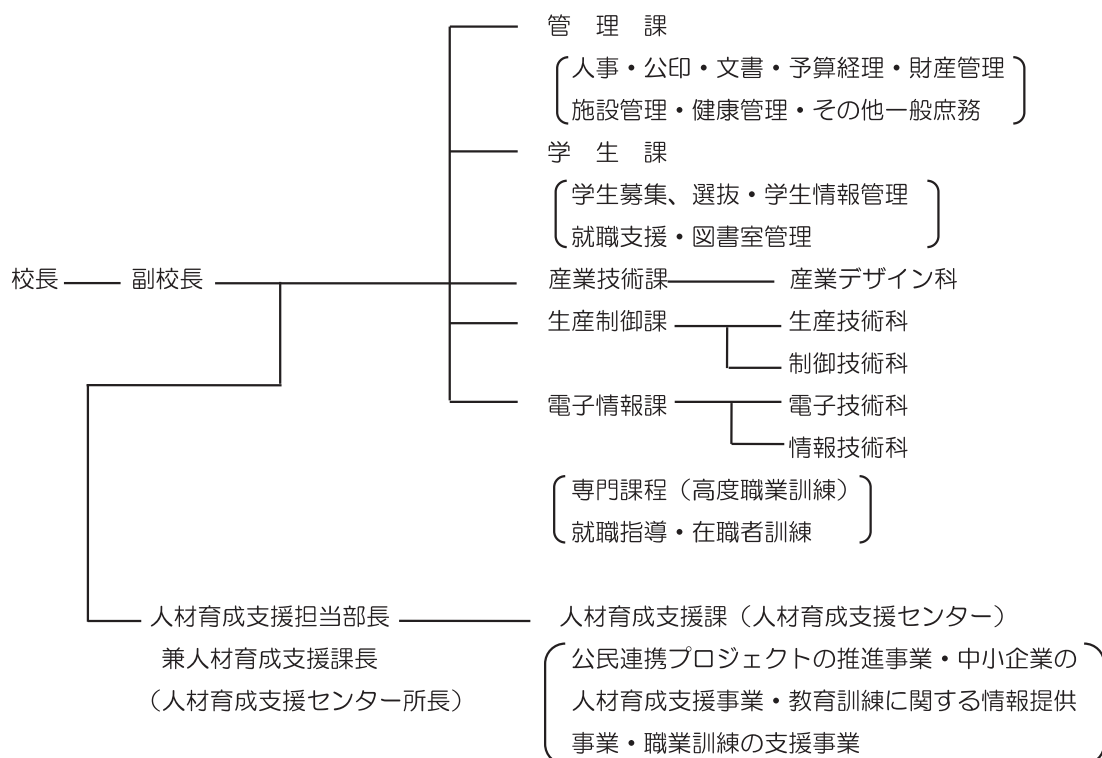
2-3 沿革

- 昭和61年4月1日 神奈川県立の高等職業技術校等に関する条例の一部改正により、神奈川県立横浜工業技術職業訓練所（昭和39年設置、統合時は神奈川県立横浜高等職業訓練校）及び神奈川県立技能訓練センター（昭和44年設置）を統合し、神奈川県立横浜高等職業技術校を横浜市旭区中尾60番地1（現：中尾2丁目4番1号）に設置
- 平成6年3月30日 神奈川県立産業技術短期大学校条例公布
（平成7年4月1日施行、一部平成6年10月1日施行）
- 平成6年7月8日 労働大臣より神奈川県立産業技術短期大学校の設置認可
（労働省収能第129号）
- 平成7年4月1日 神奈川県立産業技術短期大学校開校
- 平成8年3月31日 神奈川県立横浜高等職業技術校を廃止
- 平成22年4月1日 支所として神奈川県立産業技術短期大学校人材育成支援センターを設置
- 平成26年3月31日 支所を廃止して神奈川県立産業技術短期大学校に統合
- 平成31年4月1日 離職者等委託訓練事業を神奈川県立東部総合職業技術校二俣川支所に移管

（参考）他県の職業能力開発短期大学校の開校状況

平成5年4月	山形県立産業技術短期大学校	平成17年4月	茨城県立産業技術短期大学校
平成7年4月	長野県工科短期大学校	平成21年4月	広島県立技術短期大学校
平成9年4月	熊本県立技術短期大学校	〃	福島県立テクノアカデミー郡山
〃	岩手県立産業技術短期大学校	平成22年4月	福島県立テクノアカデミー会津
平成10年4月	大分県立工科短期大学校	〃	福島県立テクノアカデミー浜
平成11年4月	山梨県立産業技術短期大学校	平成28年4月	長野県南信工科短期大学校
平成16年4月	岐阜県立国際たくみアカデミー	令和3年4月	静岡県立工科短期大学校

2-4 組織



2-5 定員・授業料等

(1) 設置学科・定員

学 科 名	1 学 年	2 学 年	総定員
生 産 技 術 科	40名 (3名)	40名 (3名)	80名
制 御 技 術 科	40名 (3名)	40名 (3名)	80名
電 子 技 術 科	40名 (2名)	40名 (2名)	80名
産 業 デ ザ イ ン 科	40名	40名	80名
情 報 技 術 科	40名 (2名)	40名 (2名)	80名
計	200名 (10名)	200名 (10名)	400名

注：() 内数字は留学生で内数

(2) 学年及び学期 (学則による。※)

学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日まで、1年間を2期に分けて授業を実施します。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から3月31日まで

(3) 休業日 (学則による。※)

日曜日、土曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

開校記念日 7月8日

夏季休業 8月1日を含む週から8月31日を含む週までの間の4週間

冬季休業 12月27日から1月5日

春季休業 修了日翌日から入学式当日まで

(4) 授業時間 (学則による。※)

始 業 8時50分

終 業 16時10分 (水曜日は14時30分もしくは16時10分)

休 憩 12時00分から 13時00分

(5) 授業料等

区 分	入学検定料	入 学 料		授業料・聴講料	証明書交付 手数料
		入学選抜の合格発表 の日の1年前から引 き続き神奈川県内に 住所を有する者	その他の者		
学 生	18,000円	112,800円	263,300円	年 額 390,000円	1通につき 400円
聴講生	9,900円	21,700円	49,900円	1単位 5,100円	

(※)学期の区分、休業日、授業時間は、変更になることがあります。また、令和元年度及び令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による休校措置が取られたため、大幅に変更しています。

2-6 入学試験実施状況（令和3年度・第27期生）

入試状況	募集	応募者	受験者	合格者	倍率	入学者	備考
推薦入試	125名	89名	89名	87名	1.02	84名	男 112名 女 34名
一般入試	65名	60名	60名	58名	1.03	52名	
一般入試留学生枠	10名	10名	10名	10名	1.00	10名	
合計	200名	159名	159名	155名	1.03	146名	

2-7 学年別応募・入学状況

		令和3年度生						令和2年度生							
		1 年 生						2 年 生							
		生産技術科	制御技術科	電子技術科	産業デザイン科	情報技術科	計	生産技術科	制御技術科	電子技術科	産業デザイン科	情報技術科	計		
期 間		2年	2年	2年	2年	2年		2年	2年	2年	2年	2年			
定 員		40	40	40	40	40	200	40	40	40	40	40	200		
応募者の経過	応募者	26(0)	18(2)	30(2)	43(25)	42(6)	159(35)	33(2)	24(2)	39(2)	47(33)	45(8)	188(47)		
	受験者	26(0)	18(2)	30(2)	43(25)	42(6)	159(35)	33(2)	24(2)	39(2)	47(33)	45(8)	188(47)		
	合格者	25(0)	17(2)	30(2)	42(25)	41(6)	155(35)	33(2)	24(2)	39(2)	40(28)	41(8)	177(42)		
	辞退者	1(0)	1(0)	1(0)	3(0)	3(0)	9(0)	2(0)	1(0)	4(0)	1(0)	2(2)	10(2)		
入 学 者		24(0)	16(2)	29(2)	39(25)	38(6)	146(35)	31(2)	23(2)	35(2)	39(28)	39(6)	167(40)		
	内、留学生	2(0)	2(0)	3(1)	—(—)	3(0)	10(1)	3(1)	2(0)	3(1)	—(—)	2(0)	10(2)		
入 校 状 況	入 校 状 況	年 齢 別	18歳	17(0)	9(1)	19(0)	31(24)	29(4)	105(29)	23(1)	15(1)	25(1)	31(22)	24(5)	118(30)
			19歳	3(0)	4(0)	3(0)	5(1)	3(0)	18(1)	4(0)	4(0)	1(0)	2(2)	8(1)	19(3)
			20～29	2(0)	3(1)	7(2)	3(0)	6(2)	21(5)	3(1)	4(1)	8(1)	6(4)	7(0)	28(7)
			30～39	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
			40～49	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
			50～59	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
			60歳以上	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
学 歴 別	高 卒	21(0)	13(1)	26(0)	39(25)	34(4)	133(30)	27(1)	21(2)	32(1)	39(28)	37(6)	156(38)		
	短大卒	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)		
	大 卒	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)		
	その他	2(0)	3(1)	3(2)	0(0)	4(2)	12(5)	4(1)	2(0)	3(1)	0(0)	2(0)	11(2)		
住 居 別	横 浜	12(0)	7(0)	13(1)	15(8)	15(2)	62(11)	8(1)	6(0)	13(0)	20(15)	17(3)	64(19)		
	川 崎	1(0)	4(0)	3(0)	1(1)	6(2)	15(3)	4(0)	4(1)	4(1)	3(3)	4(2)	19(7)		
	相模原	2(0)	1(1)	1(0)	3(1)	2(1)	9(3)	5(1)	3(0)	4(0)	1(0)	2(0)	15(1)		
	横須賀 三浦	2(0)	1(0)	4(0)	5(4)	0(0)	12(4)	3(0)	0(0)	4(0)	3(2)	3(0)	13(2)		
	県 央	4(0)	2(1)	4(0)	4(2)	8(1)	22(4)	7(0)	5(0)	1(0)	4(3)	7(0)	24(3)		
	湘 南	2(0)	1(0)	3(0)	6(6)	4(0)	16(6)	0(0)	4(1)	3(0)	5(4)	2(0)	14(5)		
	西 湘	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)	1(0)	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	4(0)		
	足柄上 その他	1(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(0)	3(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)		

注：（ ）内数字は女性で内数

2-8 就職の状況（令和2年度）

本校では、実践技術者として企業での活躍を志す学生に対しては職業紹介を行うなど、本人の意向を踏まえた進路指導を行っています。

特に就職希望者には、学生の希望や個性・能力を尊重して、専門技術分野に就職できるように、指導を行っています。

令和3年3月31日現在

科 名		生 産 技 術 科	制 御 技 術 科	電 子 技 術 科	産 業 デ ザ イン 科	情 報 技 術 科	合 計	
定 員		40	40	40	40	40	200	
在 籍 者		22(1)	25(2)	24(0)	33(24)	34(5)	138(32)	
修 了 者		21(1)	23(1)	24(0)	33(24)	32(5)	133(31)	
就 職 希 望 者		21(1)	22(1)	21(0)	30(21)	29(5)	123(28)	
求 人 数		250	287	272	176	255	1240	
就 職 者		21(1)	22(1)	21(0)	27(19)	23(5)	114(26)	
自 営 (内数)		0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	
就 職 率 (%)		100(100)	100(100)	100(—)	90(90.5)	79.3(100)	92.7(92.9)	
就 職 状 況	地 域 別	横 浜	8(0)	8(0)	4(0)	12(7)	11(1)	43(8)
		川 崎	0(0)	0(0)	2(0)	1(1)	1(0)	4(1)
		相 模 原	0(0)	3(0)	1(0)	0(0)	1(0)	5(0)
		横 須 賀 三 浦	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	2(1)	4(3)
		県 央	2(0)	4(1)	1(0)	1(0)	1(0)	9(1)
		湘 南	8(1)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	10(1)
		足 柄 上	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		西 湘	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		東 京	3(0)	7(0)	9(0)	9(7)	7(3)	35(10)
		そ の 他	0(0)	0(0)	2(0)	2(2)	0(0)	4(2)
従 業 員 規 模 別	1～29	2(0)	2(0)	3(0)	6(2)	0(0)	13(2)	
	30～99	9(0)	8(0)	2(0)	4(3)	9(0)	32(3)	
	100～299	6(1)	3(0)	8(0)	3(3)	9(3)	29(7)	
	300～499	2(0)	1(1)	4(0)	6(5)	1(0)	14(6)	
	500～999	0(0)	5(0)	3(0)	1(0)	2(2)	11(2)	
	1000人以上	2(0)	3(0)	1(0)	7(6)	2(0)	15(6)	
平均賃金(円)		198,983	199,457	197,773	190,844	194,696	196,059	

注：() 内数字は女性で内数

就 職

令和 2 年度の状況 (令和3年3月末時点)

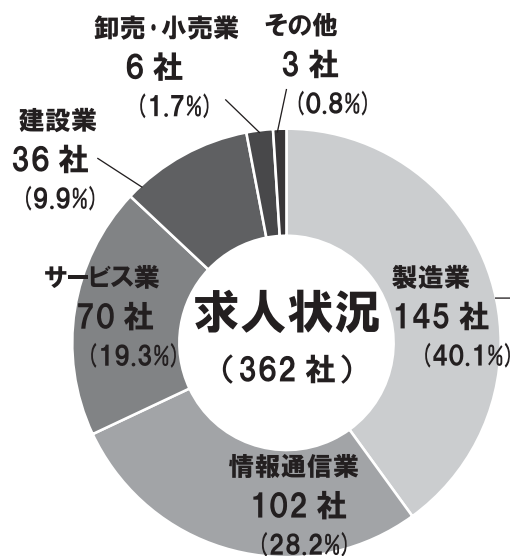
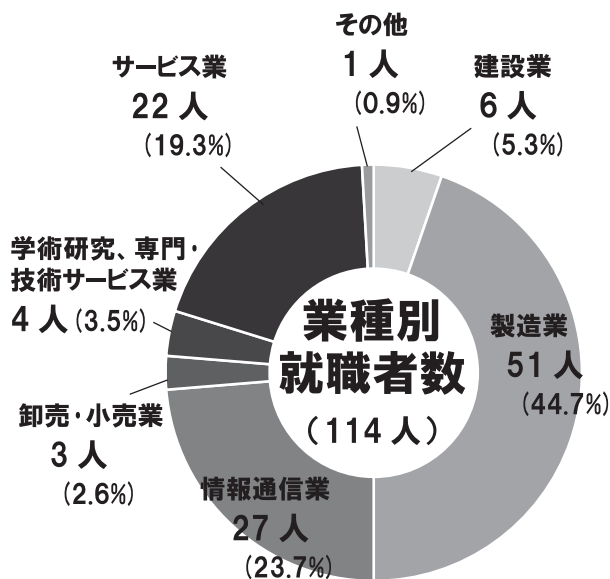
就職率

92.7 %

就職者

114 人 / **123** 人

就職希望者



●製造業内訳 ←

機械器具製造業	48
情報通信機械器具製造業	2
輸送用機械器具製造業	18
電気機械器具製造業	13
電子部品・デバイス・電子回路製造業	18
印刷・同関連業	4
金属製品製造業	19
その他の製造業	23

☆充実した就職活動支援

就職活動は、早目に準備を整え、意欲をもって取り組むことが大切です。そこで、学生が早くから就職を意識して、積極的に就職活動に取り組めるよう、1年次から社会人としての基本的なマナーを学ぶ授業やインターシップ（就業体験）を実施しています。

さらに、就職相談、キャリアコンサルティング、カウンセリングなど、就職に悩んだときに学生が気軽にアドバイスを受けられる体制を整え、企業の人事担当者の方を本校に招いて合同企業説明会を開催し、学生と企業を引き合わせる機会をつくるなど、さまざまな方法で学生の就職活動を支援しています。

☆個別就職支援

学生の就職活動については、各科のチューター（担任）や就職担当、学生課の求人開拓推進員が、企業選びから面接の受け方、履歴書の書き方指導まで、学生のさまざまな就職活動の支援を行っています。



各学科の就職状況 (平成30～令和2年度 卒業生の主な就職先及び就職分野)

<p>生産技術科</p>	<p>就職率 100% (令和2年度実績)</p> <p>就職先</p> <p>(株)REJ/愛宕精工(株)/(株)足立機械製作所/荒木工業(株)/ATテックマック(株)/(株)ETSホールディングス/NECファシリティーズ(株)/(株)オカモトオプティクス/オサ機械(株)/川崎自動車工業(株)/(有)川田製作所/河西工業(株)/(株)共栄エンジニアリング/京浜産業(株)/(株)クレール/(株)工研/五光発條(株)/(株)コバヤシ精密工業/相模鉄道(株)/(株)佐々木鉄工所/三和工機(株)/三和電機(株)/(株)JFE設計/(株)勝栄電業社/湘南技術センター(株)/湘南精機(株)/昭和精工(株)/(株)新日南/新菱工業(株)/(株)タシロイーエル/田中サッシュ工業(株)/(株)テクノステート/(株)テックモ/東京動力(株)/(株)日豊エンジニアリング/日本ギア工業(株)/日本クロージャー(株)/日本端子(株)/(株)日立産機システム/(株)マイスターエンジニアリング/(株)ミツル光学研究所/(株)安田製作所/(株)山喜/ヨコキ(株)/ワッティエ(株)</p>
<p>制御技術科</p>	<p>就職率 100% (令和2年度実績)</p> <p>就職先</p> <p>(株)IHI/(株)IJTT/荒木工業(株)/(株)アルプス技研/NECファシリティーズ(株)/オイレ工業(株)/応用電機(株)/(株)オシキリ/(株)カナメックス/川崎自動車工業(株)/関東総業(株)/京三エンジニアリングサービス(株)/(株)佐々木鉄工所/三和工機(株)/産和産業(株)/ゼネラルエンジニアリング(株)/(株)テクノステート/東亜合成(株)/(株)ニコンエンジニアリング/日産自動車(株)/日東エレベータ製造(株)/日本ギア工業(株)/日本ビルコン(株)/日本リーテック(株)/ハル・エンジニアリング(株)/(株)ビーネックスソリューションズ/(株)日立産機システム/(株)マーク電子/(株)マグトロニクス/(株)ミクニ/守谷輸送機工業(株)/ワッティエ(株)</p>
<p>電子技術科</p>	<p>就職率 100% (令和2年度実績)</p> <p>就職先</p> <p>(株)アイテック/(株)アイティ・イット/(株)アテック/(株)REJ/アンドールシステムサポート(株)/AGC(株)/(株)エスシー・マシーナリ/NECファシリティーズ(株)/(株)エム・イー/(株)エムティーアンドエス/応用電機(株)/(株)オキサイド/(株)カナメックス/関東総業(株)/技研電子(株)/共同カイテック(株)/(株)ケイテック/三波工業(株)/(株)ジェイエスピー/(株)シノザワ/(株)シミズ・ビルライフケア/ジャパニクス(株)/新日本電子(株)/図研テック(株)/タカ電子工業(株)/TMCシステム(株)/(株)デジタルフォルン/東洋通信工業(株)/東電同窓電気(株)/トランスコスモス(株)/日本ギア工業(株)/日本ビルコン(株)/(株)ヒップ/ファーンエス化工機(株)/(株)富士ダイナミクス/(株)ボルテック/(株)マイスターエンジニアリング/(株)マグトロニクス/(株)ミクニ/(株)mirate/山下システムズ(株)/ワッティエ(株)</p>
<p>産業デザイン</p>	<p>就職率 90.0% (令和2年度実績)</p> <p>就職先</p> <p>(株)アーク・アイ・コーポレーション/アシスト(株)/(株)アートプロジェクト/(株)アテック/井上鋼材(株)/(株)ウイズテックデザイン/(株)エイジェック/(株)エヌ・ケイ/(株)コア・エレクトロニクスシステム/(株)コンテック/(株)佐々木鉄工所/山協印刷(株)/(株)シバックス/湘南技術センター(株)/情報印刷(株)/図研テック(株)/(株)SUBARU/(株)創英/大成技研(株)/田中サッシュ工業(株)/(株)テクノアーク/東宝舞台(株)/(株)日産オートモーティブテクノロジー/日本ステージ(株)/(株)ノムラプロダクツ/(株)ピー・アンド・アイ/(株)文典堂/北斗(株)/(株)ユニバーサル建設/ヨコキ(株)</p>
<p>情報技術科</p>	<p>就職率 79.3% (令和2年度実績)</p> <p>就職先</p> <p>アークシステム(株)/(株)アールシーエス/(株)アイテック/(株)アプリコット/(株)エム・イー/(株)オリンピア・システムズ/(株)オレンジテクノロジーズ/関越ソフトウェア(株)/(株)ケイテック/コアフューテック(株)/(株)コスモ/三和工機(株)/(株)ジェイエスピー/システムバック(株)/システムワークスジャパン(株)/(株)第一コンピューター/テクニカルジャパン(株)/(株)テクノウェア/(株)デストプラン/東西(株)/(株)ナウビレッジ/(株)日豊エンジニアリング/(株)日本コンピュータコンサルタント/(株)ピー・アール・オー/(株)VIPワークス/フォレックス(株)/北斗(株)/(株)マエダ/(株)mirate/(株)ユニックスホールディングス</p>

2-9 年度別就職状況

令和3年3月31日現在

科名	年度	在籍者		在籍者の内 就職希望者		内定者		内定率		従業員 301名以上		従業員 300名以下		就職者の内 自己開拓 自营		未定者
生産技術科	H28	34	(4)	34	(4)	34	(4)	100.0	(100.0)	11		23	(4)	0	0	0
	H29	29	(5)	29	(5)	29	(5)	100.0	(100.0)	8	(1)	21	(4)	0	0	0
	H30	34	(4)	34	(4)	34	(4)	100.0	(100.0)	10	(1)	24	(3)	1	0	0
	R01	22		22		22		100.0	(100.0)	7		15		0	0	0
	R02	22	(1)	21	(1)	21	(1)	100.0	(100.0)	3		18	(1)	1	0	0
制御技術科	H28	31	(1)	30	(1)	30	(1)	100.0	(100.0)	9	(1)	21		3	1	0
	H29	34	(1)	32	(1)	28	(1)	87.5	(100.0)	11		17	(1)	0	0	4
	H30	34	(4)	27	(3)	27	(3)	100.0	(100.0)	16	(1)	11	(2)	2	0	0
	R01	24	(1)	21	(1)	20	(1)	95.2	(100.0)	9		11	(1)	0	0	1
	R02	25	(2)	22	(1)	22	(1)	100.0	(100.0)	3		19	(1)	2	0	0
電子技術科	H28	24	(5)	24	(5)	24	(5)	100.0	(100.0)	6	(1)	18	(4)	1	0	0
	H29	30	(1)	24	(1)	23	(1)	95.8	(100.0)	14	(1)	9		0	0	1
	H30	27	(1)	26	(1)	26	(1)	100.0	(100.0)	13	(1)	13		1	0	0
	R01	36	(4)	35	(4)	33	(4)	94.3	(100.0)	14	(1)	19	(3)	1	0	2
	R02	24		21		21		100.0		0		21		1	0	0
産業 デザイン科	H28	34	(24)	34	(24)	32	(23)	94.1	(95.8)	8	(5)	24	(18)	15	0	2 (1)
	H29	39	(35)	39	(35)	39	(35)	100.0	(100.0)	12	(11)	27	(24)	4	0	0
	H30	33	(25)	33	(25)	33	(25)	100.0	(100.0)	3	(2)	30	(23)	4	0	0
	R01	30	(19)	29	(19)	29	(19)	100.0	(100.0)	6	(3)	23	(16)	0	0	0
	R02	33	(24)	30	(21)	27	(19)	90.0	(90.5)	14	(11)	13	(8)	0	0	3 (2)
情報技術科	H28	39	(7)	33	(7)	33	(7)	100.0	(100.0)	8	(1)	25	(6)	2	0	0
	H29	38	(10)	35	(10)	35	(10)	100.0	(100.0)	5	(2)	30	(8)	4	0	0
	H30	33	(4)	31	(4)	31	(4)	100.0	(100.0)	4		27	(4)	0	0	0
	R01	28	(1)	24	(1)	21	(1)	87.5	(100.0)	1		20	(1)	0	0	3
	R02	34	(5)	29	(5)	23	(5)	79.3	(100.0)	5	(2)	18	(3)	2	0	6
合 計	H28	162	(41)	155	(41)	153	(40)	98.7	(97.6)	42	(8)	111	(32)	21	1	2 (1)
	H29	170	(52)	159	(52)	154	(52)	96.9	(100.0)	50	(15)	104	(37)	8	0	5
	H30	161	(38)	151	(37)	151	(37)	100.0	(100.0)	46	(5)	105	(32)	8	0	0
	R01	140	(25)	131	(25)	125	(25)	95.4	(100.0)	37	(4)	88	(21)	1	0	6
	R02	138	(32)	123	(28)	114	(26)	92.7	(92.9)	25	(13)	89	(13)	6	0	9 (2)

注：()内は女性で内数

求人状況

年度	求人企業数	300名超
H28	457	69
H29	424	65
H30	472	89
R01	459	110
R02	350	87

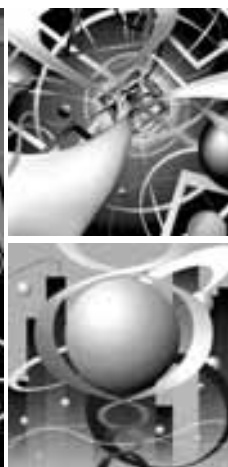
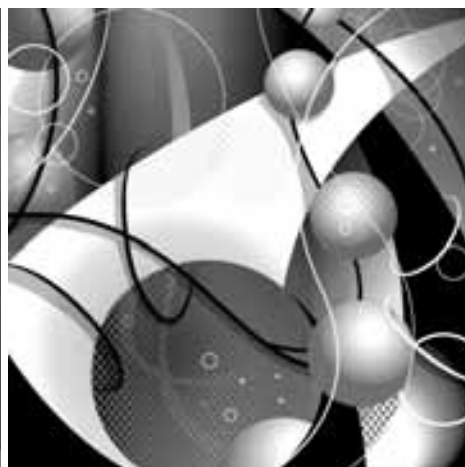
年度	求人数	300名超
H28	1,106	232
H29	1,074	234
H30	1,080	287
R01	1,486	648
R02	1,240	619

2-10 年度別就職先企業一覧

	就職先企業名	平成28年度 卒業生	平成29年度 卒業生	平成30年度 卒業生	令和元年度 卒業生	令和2年度 卒業生	過去5年間 合計
1	(株)エイジェック	2	5	1	2	8	18
2	(株)ケイテック	2	5	1	3	2	13
3	(株)テクモ	4	2	1	1	3	11
4	(株)アールシーエス	1	1	3	1	3	9
5	建通エンジニアリング(株)	4	5	0	0	0	9
6	日本ビルコン(株)	1	3	1	1	3	9
7	(株)オリンピア・システムズ	0	4	1	2	1	8
8	(株)佐々木鉄工所	2	0	2	1	3	8
9	三和工機(株)	2	4	1	1	0	8
10	日産自動車(株)	0	2	4	1	1	8
11	NECファシリティーズ(株)	1	2	2	1	1	7
12	川崎自動車工業(株)	3	2	1	0	1	7
13	(株)IJTT	1	3	3	0	0	7
14	(株)VIPワークス	1	2	2	2	0	7
15	北斗(株)	3	3	0	0	1	7
16	ヨコキ(株)	1	2	1	2	1	7
17	(株)アテック	1	2	2	1	0	6
18	オサ機械(株)	0	2	1	2	1	6
19	関越ソフトウェア(株)	1	1	4	0	0	6
20	共同カイトック(株)	3	2	0	1	0	6
21	産和産業(株)	2	2	1	0	1	6
22	(株)ジェイエスピー	3	0	1	2	0	6
23	システムワークスジャパン(株)	1	2	1	2	0	6
24	昭和精工(株)	1	0	2	2	1	6
25	(株)日立産機システム	1	2	2	1	0	6
26	(株)マイスターエンジニアリング	2	0	2	2	0	6
27	(株)ユニバーサル建設	0	2	1	1	2	6
28	アークシステム(株)	3	0	1	1	0	5
29	ATテクマック(株)	0	2	1	1	1	5
30	コアフューテック(株)	1	3	1	0	0	5
31	応用電機(株)	0	0	1	2	2	5
32	河西工業(株)	1	1	1	1	1	5
33	サンプラス(株)	3	1	1	0	0	5
34	図研テック(株)	1	2	1	0	1	5
35	(株)ヒップ	0	0	3	2	0	5
36	(株)マグトロニクス	0	0	2	2	1	5
	その他	101	84	98	84	75	442
	計	153	153	151	125	114	696

2-11 令和2年度トピックス

「技能と技術」誌の表紙デザインコンクールで最優秀賞・佳作受賞



令和2年12月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校基盤整備センターが発行する「技能と技術」誌の表紙デザイン募集に当校から5名が応募しました。全国から120点の応募があった中で、産業デザイン科・石黒あかりさんの作品（中央）が最優秀賞、伊藤美紅さん、中村梨花さんの作品（右上、右下）が佳作に選ばれました。

2021年1号（3月発行）に表彰の様子と最優秀賞受賞者インタビューが掲載され、1年間「技能と技術」誌の表紙を飾ります。

「テクニカルショウヨコハマ2021」（オンライン開催）に出展



令和3年2月15日（月）～26日（金）

毎年パシフィコ横浜で開催されている県内最大級の工業見本市「テクニカルショウヨコハマ」の「研究開発ゾーン」に、短大校並びに推進協議会に関する紹介や活動を出展しました。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント自体はオンライン開催となりました。



「職業能力開発情報交流会」を開催



令和3年3月10日(水)～11日(木)

令和4年3月卒業予定の学生を対象とした「職業能力開発情報交流会」を開催し、2日間を午前と午後の4回に分けて、計163社の企業にご参加いただきました。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により資料配布形式で行いましたが、令和2年度は感染症予防対策を徹底し、対面の説明会方式で行いました。

学生にとっては、本交流会が就職活動のスタートです。希望する企業ブースを訪れて、自己PR書を渡し、会社概要や業務内容などの説明を聞きました。

「ものづくりシippプロジェクト」4作品を認定



令和3年3月16日(火)

学校や職員が必要としている「もの」を、学生が卒業研究等で制作し、実際の使用に耐えるものを「ものづくりシippプロジェクト作品」として認定を行う「ものづくりシippプロジェクト」制度を実施しています。令和2年度は、4点が認定されました。

生産技術科	見目	京介さん	「センサー式消毒液噴出機」
生産技術科	駒澤	秀典さん	「A4ペーパー専用三つ折り器」
産業デザイン科	吉田	飛湧さん	「喫煙スペース境界区画用ベンチ」
電子技術科	出口	勇輝さん	「多機能電光掲示板」



2-12 第58回技能五輪全国大会

「技能五輪全国大会」は、23歳以下の青年技能者が技能日本一を競う大会です。第58回大会は、中部国際空港セントレア島にある愛知県国際展示場で、令和2年11月13日(金)～16日(月)の4日間の日程で実施されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客開催となり、さらに会場入場者の限定や体調確認書の提出など、徹底した対策が取られた中での大会となりました。

大会は、「機械系」、「電子技術系」、「建築技術系」、「サービスファッション系」など42職種で競技が実施されました。「電子機器組立て」職種に出場した電子技術科の川島 優さんは、6月の県予選（2級技能検定実技課題）に合格し、8月に名古屋市で実施された二次選考会を通過して本大会出場となり、全国から集まった同職種の選手49名と競いました。なお、短大校学生の全国大会出場は、第54回やまがた大会以来4大会ぶりとなります。

川島さんは、普段課題に取り組む環境とは異なる「全国大会」という舞台に戸惑いかなり緊張したそうで、課題に対しては「もう少し頑張れた」と競技終了後は少し悔しい表情を見せていました。残念ながら入賞は逃しましたが、今大会は川島さんにとって異なる環境であっても実力を出しきる大切さを実感する、貴重な体験になったようです。



国際展示場のエントランスにて



電子機器組立て競技エリア



競技課題Ⅰのはんだ付け作業



ライブ配信用のインタビュー

2-13 公開講座（グッドヒューマンネットワーク講座）

様々な分野で活躍している方をお招きし、業界の最新事情や貴重な体験をご講演いただきました。

■第34回 令和3年3月4日（木）（短大校内オンライン配信で開催）

講師：葛が谷つばさクリニック院長 長田 展明 氏

テーマ：「新型コロナウイルスに負けるな！ ～正しい情報と防御対策を～」

過去の実施状況

令和元年度	第33回：	<u>平田大登 氏（横浜市国際学生会館館長）</u> 「留学生と学び、外国人と生きる～日本を選ぶ留学生への支援と今後急増する外国人との共生について～」
	第32回：	<u>石田太志 氏（プロフットバッグプレイヤー）</u> 「目標の達成、夢の実現 ～行動する勇気と継続する情熱～」
平成30年度	第31回：	<u>平田直 氏（東京大学地震研究所教授） 他</u> 「最新の観測と防災知識によって、大地震に備える」
	第30回：	<u>蜜咲ばう 氏（飴細工師）、marino 氏（歌う紅茶屋さん）</u> 「自分の可能性を切り開く ～飴細工アーティストと紅茶アーティストの未知なる挑戦～」
平成29年度	第29回：	<u>三遊亭楽麻呂 氏（落語家）</u> 「話し方のコツ」
	第28回：	<u>根本明 氏（株式会社石音代表取締役）</u> 「目のつけどころの鍛え方 ～面白い人をめざそう～」
平成28年度	第27回：	<u>住田一男 氏（一般社団法人人工知能学会事務局長）</u> 「人工知能は人の仕事を奪うのか？」
	第26回：	<u>川名マッキー 氏（株式会社ビー・キューブ代表取締役）</u> 「スムーズなコミュニケーション術」
平成27年度	第25回：	<u>篠原雅尚 氏（東京大学地震研究所観測開発基盤センター）</u> 「新技術で進展する海域における地震・津波観測」
	第24回：	<u>吉田尚記 氏（株式会社ニッポン放送アナウンサー）</u> 「コミュニケーションの極意」
平成26年度	第23回：	<u>岩崎育夫 氏（森永製菓株式会社コーポレートコミュニケーション部広告グループデジタルコミュニケーション担当）</u> 「web動画を活用したコミュニケーション戦略」
	第22回：	<u>森下信 氏（横浜国立大学教授 環境情報研究院長 環境情報学府長 工学博士）</u> 「最先端ロボット開発の現状と将来像」 <u>天野久徳 氏（消防庁消防研究センター特別上席研究官 博士（情報学））</u> 「消防活動におけるロボット技術の活用」
平成25年度	第21回：	<u>大嶋龍男 氏（JAXA広報部特任担当役）</u> 「宇宙開発の可能性と未来 ～日本のロケット開発と実用衛星の開発～」
	第20回：	<u>根日屋英之 氏（株式会社アンプレット代表取締役）</u> 「未来コミュニケーションツール ～人体通信最前線～」
平成24年度	第19回：	<u>久住昌之 氏（漫画家・音楽家）</u> 「表現における自由と不自由」
	第18回：	<u>松田良夫 氏（東レ株式会社研究本部研究・開発企画部主幹担当部長）</u> 「先端材料こそ地球を救う ～東レの研究・開発戦略～」
平成23年度	第17回：	<u>村上洋 氏（産業技術短期大学校指導課 主査）</u> 「その状況で促される成長 ～非日常的な現実の中～」
	第16回：	<u>長谷川弘 氏（技術研究組合FC-Cubic 電動推進グループマネージャー）</u> 「我が国の燃料電池車開発の現状と未来」
平成22年度	第15回：	<u>姉川尚史 氏（東京電力株式会社技術開発研究所電動推進グループマネージャー）</u> 「電気自動車の普及を目指して ～原子力からの転進と電気自動車へ挑戦～」
	第14回：	<u>森健一 氏（東京理科大学大学院教授、元株式会社東芝常務取締役）</u> 「日本語のワードプロセッサの開発 ～なぜワープロを開発したか、困難をどう克服したか～」

2-14 令和2年度年間行事

月 日	行事内容	対 象
4月6日(月)	入学式(新入生167名 うち男性127名、女性40名)	1年生
4月6日(月)	オリエンテーション	2年生
6月24日(水)	防災避難訓練	学生・職員
7月8日(水)	開校記念日	
7月27日(月)、28日(火)	授業見学会(参加者17名)	高校教諭
8月6日(木)~14日(金)	夏季休業	学生
9月30日(水)	健康診断	学生
11月9日(月)	文化祭(学生のみ)	学生
11月11日(水)	防災避難訓練	学生・職員
11月20日(金)	公募推薦及び第1回一般入学選抜試験	
12月3日(木)	就職ガイダンス	1年生
12月28日(月)~1月4日(月)	冬季休業	学生
1月19日(火)~1月28日(木)	総合技能演習、技能照査、企業実習(インターンシップ)	学生
1月29日(金)	第2回一般入学選抜試験	
2月10日(水)~3月2日(火)	卒業研究発表	2年生
3月18日(木)	卒業式(卒業生133名 うち男性102名、女性31名)	2年生
3月18日(木)~4月4日(日)	春季休業	在校生
3月23日(火)	進級発表	1年生

就職説明会

6月17日(水)	合同企業説明会 (企業プロフィール等の書類を郵送していただき、学生に配布し学生が連絡をとる方式)	2年生
3月10日(水)、11日(木)	情報交流会(参加企業:推進協会会員企業163社)	1年生

公開講座

3月4日(木)	グッドヒューマンネットワーク講座(長田展明講師)	学生
---------	--------------------------	----

オープンキャンパス

7月20日(月)	留学生対象オープンキャンパス(参加者1名)	留学生
8月25日(火)	留学生対象オープンキャンパス(参加者3名)	留学生
9月3日(木)	留学生対象オープンキャンパス(参加者8名)	留学生
9月6日(日)	オープンキャンパス(第1回学校説明会、エンジニアセミナー) (参加者延べ90名)	一般・高校生・ 保護者・留学生
9月20日(日)	オープンキャンパス(第2回学校説明会、エンジニアセミナー) (参加者延べ76名)	一般・高校生・ 保護者・留学生
10月11日(日)	オープンキャンパス(第3回学校説明会、エンジニアセミナー、 入試説明会)(参加者延べ46名)	一般・高校生・ 保護者・留学生
12月13日(日)	オープンキャンパス(第4回学校説明会、入試説明会) (参加者延べ28名)	一般・高校生・ 保護者・留学生
1月31日(日)	高校2年生向けオープンキャンパス(適職診断、施設見学) (参加者延べ13名)	高校2年生・ 保護者

2-15 企業在職者のための能力開発施設としての機能

(1) 事業の概要

本校は、専門課程の高度職業訓練の実施とともに、本県の職業能力開発を推進する中核施設として、職業技術の高度化に対応する企業在職者のための能力開発や、施設の利用援助事業を実施しています。

(2) 在職者等訓練事業の計画と実績

企業の在職者を対象に、メニュー型及びオーダー型の専門短期課程の高度職業訓練を実施しています。

- ・メニュー型…「スキルアップセミナーガイド2021」やホームページ等で広報を行い、機械、制御、電子、情報、デザインの各分野及び、管理・経営・階層別の2日間または4日間のセミナーを実施しています。
- ・オーダー型…企業の方々からの相談に応じて、受講者の要望に沿った内容のセミナーを企画し実施しています。

(数字は延べ人数)

職系・科名	令和3年度計画	令和2年度	
		計画	実績
生産技術科	140 (130、 10)	140 (130、 10)	22 (22、 0)
制御技術科	120 (110、 10)	120 (110、 10)	33 (33、 0)
電子技術科	130 (120、 10)	130 (120、 10)	4 (4、 0)
産業デザイン科	140 (130、 10)	140 (130、 10)	7 (7、 0)
情報技術科	370 (130、 240)	370 (130、 240)	19 (0、 19)
生産管理系	600 (600、 0)	600 (600、 0)	282 (282、 0)
合計	1,500 (1,220、 280)	1,500 (1,220、 280)	367 (348、 19)

※ () 内の数字は、(メニュー型、オーダー型)の内数

(3) 施設の利用援助事業

法に基づき、事業主などが行う職業訓練・技能検定等に対し、その実情に応じて必要な援助等を行っています。

- ・事業内職業訓練に関する援助…神奈川県塗装技能訓練校 他3団体
- ・技能検定等に関する援助………(一社)神奈川県プラスチック工業会 他

2-16 人材育成支援センターとしての機能

本校では、職業能力開発における本県の中核施設の機能を果たすため、「人材育成支援センター」を設置し、民間と公共の連携によるカリキュラム開発や中小企業の人材育成支援、求職者への教育訓練情報の提供等を推進しています。

産業技術短期大学校人材育成支援センター 概念図

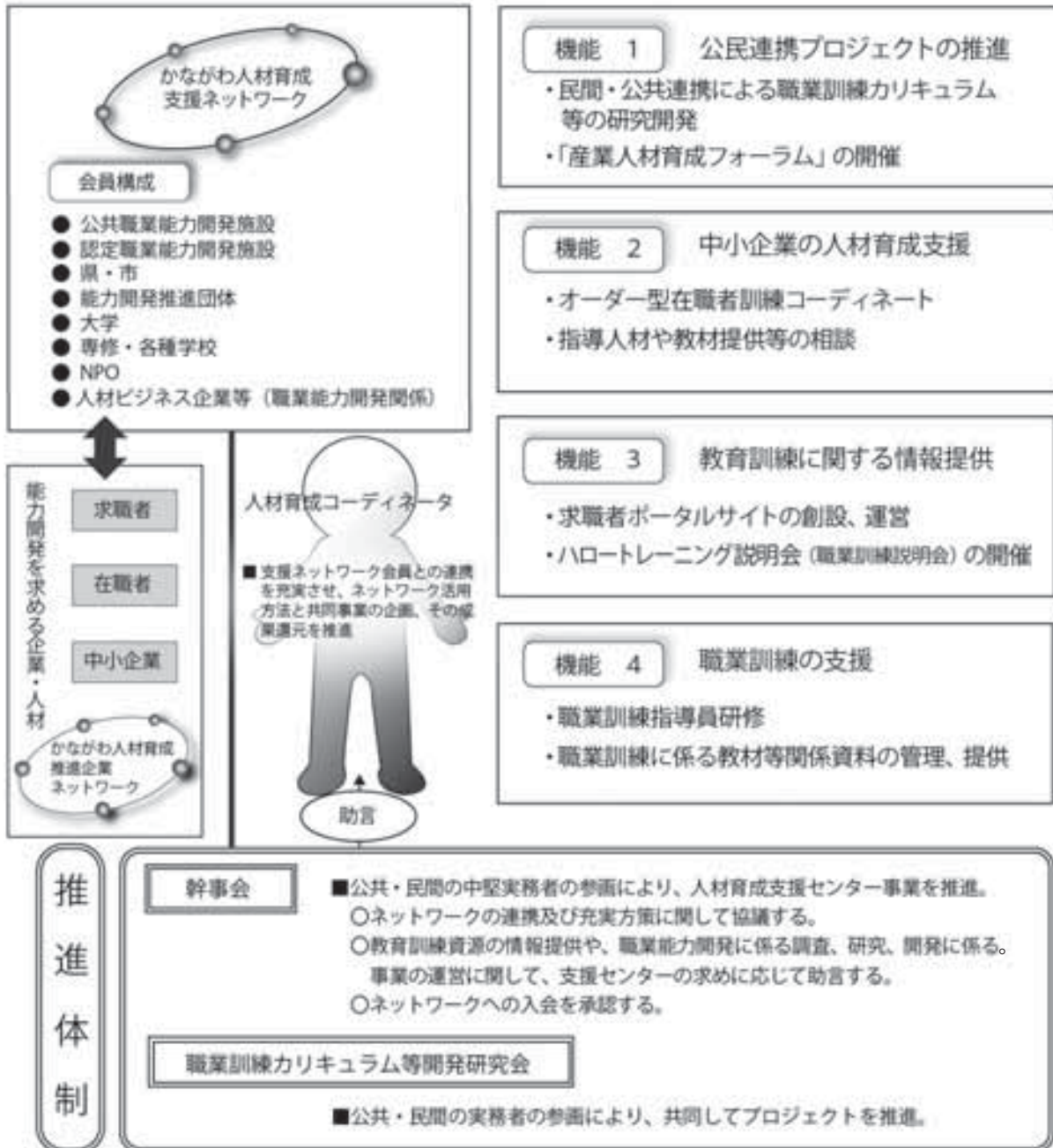
設置主旨：公共と民間とが連携し、社会全体で職業能力開発を推進するための中核機能として設置 (H16)

■能力開発を求める求職者・中小企業に対して

公共と民間が有する教育訓練に関する情報（施設、指導人材、ノウハウ等）の提供や相談等を行うことにより、主体的な能力開発を支援

■能力開発実施機関に対して

公共と民間が共同して職業訓練カリキュラム等の開発・調査研究等を行い、就職に結びつく能力開発や効果的な従業員教育が実施できるよう支援



人材育成支援センターは、主として次の4つの機能を有し、人材育成に関する総合的な支援の拠点としての役割を果たしています。各事業の内容と令和2年度の実績は次のとおりです。

(1) 公民連携プロジェクトの推進

職業能力開発に係る多様な教育訓練資源を有する民間団体(各種学校、企業、NPO法人等)と公共職業能力開発施設等が相互に連携し、人材の育成活動、事業を支援するかながわ人材育成支援ネットワーク(190会員)の協力のもと、情報の共有化と教育訓練資源の充実を図っています。また、かながわ人材育成推進企業ネットワーク(496企業)を運営し、会員企業に人材育成に関わる情報を提供するとともに、人材育成に関するニーズを把握し、事業に活かしています。

① 民間・公共連携による職業訓練カリキュラム等の研究開発

上記のニーズ把握に基づき、職業訓練カリキュラムの開発をはじめとする調査研究を行っています。

また、調査研究の成果をもとに本校で開催する在職者等訓練においてセミナーを実施するとともに、成果物であるテキストを希望する企業・団体に提供するなど、幅広く活用できるようにしています。

令和2年度 実績	2テーマの調査研究を実施 ・人材確保のための会社の魅力づくり研修プログラム開発 ・新入社員研修の基礎と応用プログラム開発
----------	--

② 「産業人材育成フォーラム」の開催

かながわ人材育成支援ネットワーク会員をはじめとする企業等の在職者、求職者等に対し、職業能力開発に関する意識啓蒙や教育訓練に関する情報を広く提供するため、「産業人材育成フォーラム」を開催しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対象を短大校学生のみとし、校内オンライン配信で実施しました。

令和2年度 実績	令和3年3月4日 校内オンライン配信 新型コロナウイルスに負けるな! ~正しい情報と防御対策を~ 講師 長田 展明 氏(葛が谷つばさクリニック院長)
----------	--

(2) 中小企業の人材育成支援

① オーダー型在職者訓練コーディネーター

従業員に対し企業内部で教育訓練を行うことが難しい中小企業等からの相談に応じて実施する、オーダー型在職者訓練のコーディネーターを行っています。

当センターに所属する在職者訓練コーディネーター4名が企業を訪問し、訓練ニーズを把握し、日程や訓練内容等の要望を伺い、職業技術校等での訓練実施に向けて調整を行います。

② 指導人材や教材提供等の相談

オーダー型在職者訓練のコーディネート過程で寄せられたさまざまなニーズに対して、他機関が実施する訓練や指導人材の紹介、教材の提供など、きめ細かく的確な支援ができるよう努めています。

令和2年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・オーダー型在職者訓練のコーディネート件数 ・オーダー型在職者訓練実施講座数 ・指導人材や教材提供等の相談や紹介件数 	2,536件 52講座 32件
----------	--	-----------------------

(3) 教育訓練に関する情報提供

① 求職者ポータルサイトの運営

民間・公共の教育訓練資源情報（講習会、施設、教材、カリキュラム等）を一元化し、インターネット等で情報提供するとともに、求職者が適職相談や就職対策講座、職業訓練相談などに関する情報を取得できるポータルサイトを運営しています。

② ハロートレーニング説明会（職業訓練説明会）の開催

求職者等へのキャリア支援のため、公共職業安定所等で説明会を開催し、神奈川県立の短大校や職業技術校等のみならず、他機関が実施する公共職業訓練についても幅広く情報を提供するとともに、職業訓練に関わる受講相談を受け付けています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべて中止し、新たに動画版「ハロートレーニング説明会」を作成しホームページに公開しました。

令和2年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・動画版「ハロートレーニング説明会」視聴回数 ・ホームページを利用した情報等の提供件数 	1,378回 95,431件
----------	--	-------------------

(4) 職業訓練の支援

① 職業訓練指導員研修

短大校や職業技術校等で訓練を担う指導員の指導スキル向上のため、「職業訓練指導員研修委員会」を設置して、委員会の運営から受講手続き、受講後のフォローまでを一貫して行っています。

指導員個々の専門的な知識・技術・技能を高めるための研修はもとより、特に近年は教育現場のハラスメント問題への対応や、精神障がい者など特別な配慮を必要とする訓練受講者への対応が課題となっているため、指導員全員の共通能力向上を目的に、そうしたテーマの研修を継続的に企画・実施し、令和元年度は精神障がい者理解の研修を拡充するなど、他県に先駆けた研修モデルの構築に取り組んでいます。

② 職業訓練に係る教材等関係資料の管理、提供

収集した職業能力開発に関する資料や教材、当センターで開発した教材や研究開発の成果物を管理し、関係各機関からの要請を受け提供を行っています。また、神奈川方式の訓練単位について、各総合職業技術校及び神奈川障害者職業能力開発校からの依頼を受け、登録作業を行っています。

令和2年度 実績	職業訓練指導員研修の受講者数	66コース 559名
----------	----------------	------------

3. 学科紹介

生産技術科



制御技術科



電子技術科



産業デザイン科



情報技術科



生産技術科

Advanced Manufacturing & Design



自分のアイデアを 形にできる力をつけよう！

「こんなこといいな できたらいいな」
その思いから“ものづくり”は始まります。
機械を上手に操って、自分の手で、社会に役立つものを作り出そう。

☆主な学科と実技科目 (一部教育科目は全科共通)

専門学科	工業物理／機械工学概論／制御工学概論／電気工学概論／情報工学概論／工業材料／力学／機械製図／生産工学／安全衛生工学／機構学／機械設計／機械加工学／塑性加工学／機械制御／測定法／数値制御／機械工学特別講座
専門実技	基礎工学実験／機械工学実験／電気工学基礎実験／情報処理演習／安全衛生実習／機械加工実習／数値制御加工実習／制御工学実習／計測工学実験・実習／機械製図実習／機械設計実習／CAD/CAM演習／CAE演習／塑性加工実習／総合製作実習／総合技能演習／卒業制作・研究

☆トピックス

若年者ものづくり競技大会に参加！

第14回若年者ものづくり競技大会が、福岡県で開催されました。生産技術科からは、佐藤さんが「旋盤」競技に、川井さんが「機械製図(CAD)」競技に参加しました。日ごろの練習の成果を如何なく発揮してきました。今後も学生のやる気を支援していきます。



Pico-EV エコチャレンジ 2021 参戦！

生産技術科では、「Pico-EV エコチャレンジ 2021」(日本機械学会主催)に挑戦しました。単三電池6本(7.2V)を使い20分間でどれだけ走ることができるか、というレースです。新型コロナウイルスの感染予防からオンライン開催になり、本校体育館で行いました。走行距離は、2253.1m(事前提出時)、当日の技術講演会では、製作した車両の説明等をしっかりとアピールしました。その結果、「エコデザイン賞」を受賞することができました。このような人が乗って動く「くるま」をテーマにしています。



☆卒業制作・研究



●小型CNCフライス盤

CNCフライス盤とは、フライス盤にCNCを組み込んだもので、加工手順、工具、移動距離などを数値制御で自動的に加工を行う工作機械です。奥行60mm、幅100mm、高さ50mmのS45Cを加工できることを目標としています。



●センサー式消毒液噴出機の製作

この消毒液噴出機は、あらかじめ装置にセットしている消毒液ボトルを機構の動きによってプッシュすることで、直接・間接問わず、人肌どうしの接触なしで消毒液を噴出できます。



●ゴム動力自動車の製作

動力源はゴムのみ。大人一人を乗せて走ることができるエコロジーな小型モビリティをテーマにした「ゴム動力自動車コンテスト」での優勝を目指して、ゴム動力マシンを製作しました。

☆カリキュラム概要

	1年次				2年次			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
専門科目	機械設計基礎技術 機械設計に必要な強度計算や機械要素の種類と用途の学習及び材料実験をとおして工業用材料に関する知識や報告書の作成方法等を習得する。また、機械製図に関する規則を学習して機械図面の読み方・書き方を理解して、CADを用いて2次元図面を製作することができる。				モデリング技術 デジタルエンジニアリングの中核をなす3次元モデリングを活用した設計手法を学習して機械設計技術の理解を深める。			
	機械加工基礎技術 機械加工に関する加工条件等の切削理論、切削工具及び被削材等の材料特性を理解する。また、各種汎用工作機械の操作法を習得しながら機械部品の製作に関する基本的な各種加工方法を身に付ける。 同時に加工作業に必要な計測・測定法を理解して、測定に関する知識を身に付けると共に測定機器の取り扱いや調整を含めた測定作業全般を習得する。				シミュレーション技術 CAEによる解析技術やCAMを用いた加工工程の最適化を行い開発設計から製造までのプロセスをPC上でシミュレートする知識・技術の強化を図る。			
					総合設計・製作技術 生産技術に関する機械設計・製作・調整・評価までの一連の流れを理解した上で、各作業工程において合理的なものづくりを行なう。自ら問題点を発見することやこれを解決する能力を身につけることで各専門分野のさらなる理解を深める。 また、グループ活動を通じて、自己表現やコミュニケーション能力を向上させてヒューマンスキルを高める。その他にも自ら工程計画を立案して、スケジュール管理することでプロジェクトマネジメントする能力を高めることを目標とする。			
	情報基礎技術 コンピュータをツールとして扱うために社会人に求められるアプリケーションの操作方法とコンピュータの基礎知識を習得する。				機械制御基礎技術 シーケンス制御に関する知識を学び、リレー等の制御機器の取り扱いや配線作業を行い制御回路の基礎技術を身につける。			
					数値制御加工技術 NC工作機械の取り扱いやプログラミング技術の習得及び加工技術を学ぶ。			
					塑性加工技術 板金加工や溶接作業に関する技術を習得して幅広い加工技術を身につける。			
					自動制御・機械保全技術 各種センサやアクチュエータをPLCによる自動制御を行い、機器調整技術やトラブルシューティング能力を向上させる。			
社会人基礎力一般教育	オリエンテーション ○マナー・常識の理解・実践、チーム力の理解、自己表現や文章表現力の向上、職業意識の向上を目指す。 ○英語力（留学生は日本語力）の向上を目指す。 ○運動の継続により、健康維持を図るとともに体力増強を目指す。				○職業人としての基礎を完成させ、自ら行動できる技術者の育成を行う。 ○企業人として必要な教科を学ぶ。（選択教科）			
学習課程 ものづくり課題	学習の準備		要素技術の習得		技術の連結		仕上げ(制作・研究)	
	メカニカルハンド製作		機械系保全作業盤の製作		卒業制作・研究			

制御技術科

Robotic & Control Systems



**想いのままに
システムをコントロール
してみよう！！**

ロボットが生活や産業をサポートするようになった現代、ロボットを動かしている技術が制御（メカトロニクス）技術です。
あなたもメカトロニクスエンジニアの世界へ！

★主な学科と実技科目 (一部教育科目は全科共通)

専門学科	機械力学／機械製図／安全衛生／制御工学概論／電気工学概論／材料力学／情報工学概論／数学基礎演習／工業材料／生産工学／機械工学／メカトロニクス工学／自動制御／電子回路／マイクロコンピュータ工学／デジタル回路／計測工学／数値制御
専門実技	基礎工学実験／電気工学基礎実験／情報処理演習／機械工学実験／産業用ロボット安全作業実習／機械組立作業実習／機械加工実習／電気安全作業実習／電子工学実験／制御プログラム実習／機械製図実習／空気圧制御実習／制御工学実験・実習／シーケンス制御実習／メカトロニクス実習／組込プログラム実習／CAD演習／数値制御実習／センサ工学／塑性加工実習／システム設計演習／総合技能演習／卒業制作・研究

★トピックス

自立型相撲ロボット競技会を開催

制御プログラム実習のテーマとして、相撲ロボット対戦プログラムを作成し、大会を開きました。プログラムの課題でしたが、今まで学習したメカトロニクス実験やセンサ工学で学んだ知識を活用した、個性のある相撲ロボット達が揃いました。

直径約80cmの土俵上で、相手を探して土俵外に押し出すと勝ちというシンプルなルールでしたが、相手を見つけれず、自分から土俵外に飛び出したり、実力が伯仲して何度も水入りになるなど、予想以上の熱戦となりました。



★卒業制作・研究



●物の運搬が可能な多脚ロボットの製作

八足の多脚走行ロボットを制作しました。このロボットは、通常の八足歩行の他に六足で歩行し、残りの2足の足をアームとして使い、物の運搬を行うことを可能としています。



●色判別ワーク1個送り装置の製作

ワーク1個送り装置は、ワークを1つずつ送り出し、カラーセンサに登録した色とそれと異なる色を仕分けることができる装置です。



●スターリングエンジンの製作

スターリングエンジンとは、外側から熱を与え空気を熱し膨張させ、さらに冷却部で空気を冷やし収縮させて、この空気の圧力の差を利用して動かす、外燃機関の一つです。車やバイクなどのエンジンに使用される爆発を利用した内燃機関とは違い、とても静かなのが特長です。

☆カリキュラム概要

	1年次				2年次			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
専門科目	機械基礎技術 金属の持つ性質の理解、汎用工作機械による加工技術、設計図面の読み方、書き方、力学の基礎を学習することにより、機械分野の基本スキルを習得する。		機械応用技術 力学、機構学、CAD、解析技術の学習により機械設計に関する知識の強化をはかる。また、数値制御、シミュレーションなど産業界を意識した実学融合の学習を行う。		FA 技術 自動化技術を生産活動に応用する力を身に付け、システムとして提案できる技術者として成長するために、適切な制御装置、センサ、アクチュエータを選定できると同時に制御手法についても吟味・検証できる力を養う。産業ロボット、シミュレーション、FA、ネットワークなどのシステム全体の構築や保守技術に加え、工程管理や品質管理ができる技術者を育成する。		総合設計・製作技術 設計技術者としての基礎能力を習得する。仕様の調査から、設計、製作、検査までの一連の流れを理解できる。グループの一員として、自分の位置づけや役割を理解した行動ができ、コミュニケーション能力を養う。	
	制御基礎技術 外界の状況を把握する各種センサや動力源となるアクチュエータについて、その種類や原理、使い方を学習する。フィードバックを始めとする制御方式について理論を交えながら基礎的な学習を行う。		自動化技術 各種センサやアクチュエータを組み合わせ、生産現場における自動化技術に関する知識技術を学ぶ。配線技術、シーケンス制御技術を身につけ、空気圧制御機器を用いた自動化装置の製作ができる。					
	電気・電子技術 回路理論、アナログ回路及びデジタル回路について学習する。また、学習した内容について実験を通して理解を深める。さらに、安全に作業するための技能も学習する。							
	情報技術 コンピュータを道具として扱うために社会人に求められるアプリケーションの操作方法及びプログラミングの基礎を習得する。		組込み技術 マイコンを使用した制御機器を製作する知識を養う。マイコンの内部的な仕組みやプログラミング技術、周辺機器を接続するためのインターフェースについて、製作を行う。					
社会人基礎力一般教育	オリエンテーション ○マナー・常識の理解・実践、チーム力の理解、自己表現や文章表現力の向上、職業意識の向上を目指す。 ○英語力（留学生は日本語力）の向上を目指す。 ○運動の継続により、健康維持を図るとともに体力増強を目指す。				○職業人としての基礎を完成させ、自ら行動できる技術者の育成を行う。 ○企業人として必要な教科を学ぶ。（選択教科）			
学習課程 ものづくり課題	学習の準備		要素技術の習得		技術の連結		仕上げ(制作・研究)	
			1軸テーブルの製作		自動制御装置の製作・調整		卒業制作・研究	

電子技術科

Electronic Devices & Communication Systems



IoTを支える エレクトロニクスを学び 人と未来をつなぐ！

人やモノがいつでもどこでもつながる時代がやってきています。スマートフォンも自動車も通信機能を持った電子回路が必要です。インターコネクション時代のエレクトロニクスエンジニアをめざそう。

☆主な学科と実技科目 (一部教育科目は全科共通)

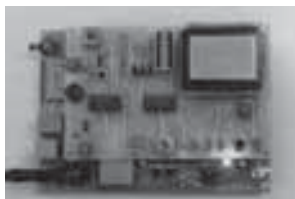
専門学科	数学基礎演習／電磁気学／直流回路／交流回路／電子計測／電子工学／情報工学概論／品質管理／生産工学／安全衛生／通信工学／制御工学／アナログ電子回路／デジタル電子回路／電子回路素子工学／メカトロニクス工学概論
専門実技	電気工学基礎実験／電子工学基礎実験／電子回路基礎実験／情報工学基礎実習／電子工作基本実習／電子製図実習／アナログ電子回路実験／デジタル電子回路実験／HDL設計実習／通信工学実習／コンピュータ工学実習／電子回路製作基本実習／電子機器組立基本実習／総合技能演習／卒業制作・研究

☆トピックス

技能五輪全国大会に出場しました！

電子技術科では、電子回路基板を組立てる技と、マイコンプログラムを作成する技を競う大会にチャレンジしています。

令和2年度は「第58回技能五輪全国大会」神奈川県代表の一人として当科の川島優さんが出場しました。全国各地から49名の精鋭が集い、ものづくりの技能を競いました。



文化祭で競技会を開催！

1年生の工作基本実習で、一人1台バギーロボットを製作し、文化祭で競技会を行いました。制御回路には教育用の超小型コンピュータである「micro:bit (マイクロビット)」を使用し、学生が思い描く動作をプログラムにし、具現化します。

学生は、ものをつくる楽しさと思うように動かす難しさの重要性を学んでいます。



☆卒業制作・研究



●RGB LED matrix panelを用いた多機能電光掲示板の製作

フルカラーRGBLEDマトリクスパネル(16x32ドット)4枚を接続し、様々な情報を掲示する多目的電光掲示板を製作しました。



●電動立ち乗り二輪車の製作

車体の傾きを加速度センサで計測し、マイコンでモーターの制御を行います。前後左右の移動ができ、傾きの角度でモーターの速度を制御して走行速度を変えることができます。



●圧電素子を用いた振動発電板の製作

スピーカーに用いられる圧電素子を用いた振動発電板です。足踏み1歩あたり約2.5mVを発電します。貯めた電気でLEDライトを点灯させることができます。

☆カリキュラム概要

	1年次				2年次							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
専門科目	電気・電子基礎技術 電気回路、電磁気、電子製図等の基礎的な知識を身に付けるとともに、基礎的な実験・実習を通して測定器の取り扱い方を身に付ける。				総合設計・製作技術 企画作成から、調査、設計、製作、検査までの「ものづくり」の一連の流れを身に付け、設計技術者としての基礎能力を習得する。							
	電子工学基礎技術 ダイオード、トランジスタ等の半導体デバイスの特性を理解し、アナログ回路の基本知識を身に付ける。								情報通信技術 有線通信、無線通信、インターネットなど、情報通信の知識や通信方法を身に付ける。			
	アナログ電子回路技術 オペアンプを使用した増幅回路の設計、製作、測定方法を身に付ける。また、電子デバイスの特性を理解し、実験やシミュレーションを通して、アナログ応用回路の設計方法を身に付ける。											
	デジタル電子回路技術 基本論理ゲートを理解し、各種ロジックICを用いたデジタル回路技術を身に付ける。また、デジタル電子デバイスの特性を理解し、HDLを用いた回路設計方法を身に付ける。											
	電子機器組立技術 電子機器の組立てに必要な電子部品のはんだ付け、配線方法、シャーシ組立て方法、および調整方法を身に付ける。											
	情報リテラシー 生活に必要なコンピュータ利用技術の基本を身に付ける。また、プログラミングの基本を身に付ける。								コンピュータ制御技術 マイクロコンピュータを用いて、スイッチによりLEDやモータを制御する方法や、そのインターフェース回路等の知識を身に付ける。また、装置に組み込まれた各種センサからの信号を処理し、所望のアクチュエータを動作させるプログラミング技術を身に付ける。			
	電気機器制御技術 電気制御回路を製作し、リレーやPLCを使用したシーケンス制御技術を身に付ける。											
社会人基礎力一般教育	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ○マナー・常識の理解・実践、チーム力の理解、自己表現や文章表現力の向上、職業意識の向上を目指す。 ○英語力（留学生は日本語力）の向上を目指す。 ○運動の継続により、健康維持を図るとともに体力増強を目指す。 			<ul style="list-style-type: none"> ○職業人としての基礎を完成させ、自ら行動できる技術者の育成を行う。 ○企業人として必要な教科を学ぶ。（選択教科） 							
学習課程 ものづくり課題	学習の準備	要素技術の習得			技術の連結		仕上げ(制作・研究)					
		省エネコントローラの製作			キッチンタイマ回路の製作・プログラム		卒業制作・研究					

産業デザイン科

Creative Industrial Design



デザインの世界！ ものづくりにはかせないもの！

私たちの身の回りにはあるものは、すべてがデザインされています。
デザインは「ものづくり」に無くてはならないもの。
ここではそんな魅力的なデザインの世界が待っています！

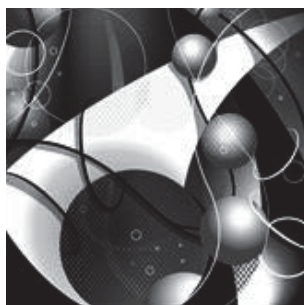
☆主な学科と実技科目 (一部教育科目は全科共通)

専門学科	造形論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／材料加工法／デザイン概論／色彩学／美術史／製品計画Ⅰ・Ⅱ／製品設計／情報処理・DTP概論／視覚伝達デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ／プレゼンテーション／材料学／安全衛生／人間工学／生産工学／Web概論／品質管理
専門実技	描画表現実習Ⅰ・Ⅱ／基礎製図／デッサン／CAD製図／デザイン基礎実習／プレゼンツール制作実習／製品設計実習／視覚伝達デザイン実習／情報処理実習Ⅰ・Ⅱ／総合製作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／総合技能演習／卒業制作・研究

☆トピックス

「技能と技術」誌の表紙デザインコンクール受賞

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 基盤整備センターが発行する「技能と技術」誌の表紙デザインコンクールに応募し、3名が受賞しました。今後もこのような活動を積極的に行っていきます。



産学連携デザインの取り組み

企業等のご協力をいただきながら、学生が実践的なデザインに取り組んでいます。

令和2年度の取り組みは、以下の内容でした。
『プリント基板の廃材を利用した雑貨のデザイン提案』



☆卒業制作・研究



●新たなプライベートブランドで販売するお菓子のパッケージ考案

スーパーマーケット業界の市場調査やマーケティングを行い、オリジナルブランドの商品企画及び販売促進ツールを制作しました。



●鍵を使用しない引き出しの制作
伝統工芸にある「からくり箱」をヒントに、日常で使用する引き出し箱の鍵を、金属や電子部品を使用せずに制作しました。



●改札前待ち合わせスペースと併設カフェの計画

改札前にあったらよい空間の企画を提案するにあたり、実測に基づき平面計画を行い、モデリングソフトを用いて空間をモデリングしました。

☆カリキュラム概要

	1 年次				2 年次							
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q				
専門科目	設計計画技術 製品の意匠設計および製品設計に必要な知識の習得、および、アイデアを具体化するために必要な表現能力について学ぶ。 具体的にはデザインの歴史、工程、IT 活用技術、色材を用いた表現技術、工学的視点による設計手法を学び、それらを用いた発表技術について学ぶ。											
	製品製造技術 製品の加工・製造方法について学ぶ。 具体的には材料に応じた加工方法および仕上げ方法の選定について学ぶ。また、CAD を使用したデザインモデルを中心に使用する材料・加工方法・仕上げ方法を考慮した造形提案について学ぶ。				(外部コラボ) グループの一員として、自分の位置づけや役割を理解した行動ができるとともに、コミュニケーション能力を養う。課題を通して社会とのかかわりについて学ぶ。また、合理的な製造計画、工程管理について学ぶ。							
	選択				分野別選択技術（グラフィック） ポスター、チラシ、雑誌等のデザイン・制作を行うとともに、製本や印刷の流れを学ぶ。具体的にはIllustrator Photoshop、InDesign などを使用し、紙面を作成する方法などを学ぶ。				総合設計・製作技術 デザインエンジニアとしての総合能力を習得する。調査から、設計、製作までの一連の流れを理解できる。			
					分野別選択技術（プロダクト） 工業製品のデザインについて学ぶ。具体的には、3 D-CAD のRhino を用いた図面作成や工業用粘土を使ったクレイモデルの製作、ハードモデルの製作、木製ベンチの制作、マーカーやCAD による完成イメージ図の作成、材料知識、加工技術などを学ぶ。							
				分野別選択技術（スペース） 店舗設計のデザインと舞台美術及び内装仕上げの施工技術などを学ぶ。空間の設計、イベントブースの施工。製品を魅力的にディスプレイするためのレイアウトや照明効果計画および什器類に配慮した製品提案を行う方法などを学ぶ。								
社会人基礎力一般教育	オリエンテーション ○マナー・常識の理解・実践、チーム力の理解、自己表現や文章表現力の向上、職業意識の向上を目指す。 ○英語力の向上を目指す。 ○運動の継続により、健康維持を図るとともに体力増強を目指す。				○職業人としての基礎を完成させ、自ら行動できる技術者の育成を行う。 ○企業人として必要な教科を学ぶ。（選択教科）							
学習課程 ものづくり課題	学習の準備		要素技術の習得		技術の連結		仕上げ(制作・研究)					
	選択課題		外部コラボ		卒業制作・研究							

情報技術科

Information & Network Systems



きみも目指せ！ プログラマー・システムエンジニア！

「こんな機能があったらいいな 作ってみたいな」

怖がらずに、手を動かして、キーボードをたたいてみよう

パソコンを自在に操って、自分で考え、自分で作ろう！

☆主な学科と実技科目 (一部教育科目は全科共通)

専門学科	計算機工学Ⅰ・Ⅱ／ソフトウェア工学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ／オペレーティングシステムⅠ・Ⅱ／データベース／プレゼンテーション／プロジェクトマネジメント／システム設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
専門実技	情報数理演習／ソフトウェア基本実習／構造化プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ／図形処理実習／制御工学実習／情報工学実習Ⅰ・Ⅱ／データ通信実習／ソフトウェア設計実習Ⅰ・Ⅱ／卒業制作・研究

☆トピックス

情報処理技術者試験に挑戦

情報処理技術者試験は、経済産業省が主催する国家試験です。IT業界では認知度が高い試験であり、システムエンジニア、プログラマー等の職種で就職を目指す学生にとって有効な資格の一つです。情報処理技術者試験の中で、本校の学生が主にターゲットにしているのが、「基本情報処理技術者試験」と「ITパスポート試験」です。

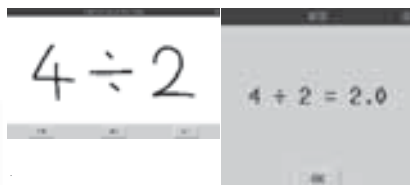


☆卒業制作・研究



●Excelを用いた企業プロフィール分析ソフトウェアの作成

短大校で開催される企業説明会のときに各企業にご提出いただいているWord形式の企業プロフィールから各項目の内容を抽出し、学生の希望人数との相関関係についてExcelを使って分析します。それにより、学生の選択の傾向をつかみ翌年度の説明会に役立てます。



●手書きの計算式（四則演算）を自動で計算するアプリの作成

手書きの数字と演算子の画像をコンピュータに学習させることにより、手書きの計算式を自動計算できるアプリです。学習させる文字は0～9の数字10種類と、四則演算記号4つを合わせた計14種類のため、アプリで行える計算は、整数の四則演算のみとなります。



●Bluetoothを使用した鉄道模型パワーパックとそのアプリの開発

自作したパソコン用の専用アプリを使って、鉄道模型の無線遠隔操作が行えます。アプリはBluetooth経由でマイコンに指示し、マイコンに組込んだプログラムが列車とポイントを制御します。また、要所に物体検出センサーを配置し、列車が安全に運行できるように仕組みも設けています。

☆カリキュラム概要

	1年次				2年次											
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q								
専門科目	通信ネットワーク構築技術 TCP/IP、LAN、WAN、OSI参照モデル等のネットワーク基礎理論を学習する。				UNIXのコマンド、ファイルシステム、viエディタ、シェルスクリプト等を理解し、UNIXシステムの操作方法を学習する。				OSのインストール、ユーザ管理、セキュアなサーバー・ネットワーク管理等のサーバー構築技術を習得する。				ワークステーションの構築とネットワーク機器の連携手法を習得する。			
	システム設計技術 関係データベース、データの正規化、SQL等の基礎技術を習得する。				プロジェクトマネジメントの理論と実践を学習する。(PBL)				要求分析から基本設計、詳細設計までをグループ活動を通して学習する。(PBL)				システム開発実践技術 学生が自らテーマを選定して研究を行う。			
	ソフトウェア設計技術 基本文法、プログラミング基礎技術を習得する。(C言語) (Java言語)				選択 Windowsアプリケーション開発技術を習得する。(C++言語)				Webアプリケーション開発技術を習得する。(Java言語)				データベースを利用したWebアプリケーションの開発技術を習得する。(C#言語) (Java言語)			
	情報周辺知識 情報数学、生産工学、人間工学等の情報技術関連知識を学習する。				電子回路・組込み制御 電子回路、アセンブリ命令、組込みLinux技術を習得する。				要求分析、設計、開発、検査、運用保守までの一連の流れを、実際にシステムを開発して理解するとともに、研究内容の発表を行う。これまで学んだ知識、技能を活かしながら、システム開発手法に関する実践的技術力を習得する。							
	情報基礎技術 コンピュータのハードウェア構成、ソフトウェアの分類、データの表現方法、セキュリティと標準化等の基礎技術を習得する。															
社会人基礎力一般教育	オリエンテーション ○マナー・常識の理解・実践、チーム力の理解、自己表現や文章表現力の向上、職業意識の向上を目指す。 ○英語力（留学生は日本語力）の向上を目指す。 ○運動の継続により、健康維持を図るとともに体力増強を目指す。				○職業人としての基礎を完成させ、自ら行動できる技術者の育成を行う。 ○企業人として必要な教科を学ぶ。（選択教科）											
学習課程 ものづくり課題	学習の準備		要素技術の習得		技術の連結		仕上げ(制作・研究)									
	スタンドアロンプログラム		ネットワーク通信プログラム		卒業制作・研究											